

## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月2日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9003 URL <https://www.sotetsu.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 滝澤 秀之  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略室部長 (氏名) 森 肇 TEL 045-319-2043  
 四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	191,158	7.5	21,379	114.8	20,194	126.8	13,952	154.5
2023年3月期第3四半期	177,888	11.2	9,952	203.7	8,906	247.8	5,482	294.1

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 14,426百万円 ( 87.7%) 2023年3月期第3四半期 7,687百万円 ( 606.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	142.41	—
2023年3月期第3四半期	55.96	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	669,131	156,782	23.4
2023年3月期	646,951	145,789	22.5

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 156,685百万円 2023年3月期 145,696百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	10.00	—	15.00	25.00
2024年3月期	—	20.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	30.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有  
 配当予想の修正については、本日（2024年2月2日）公表いたしました「2024年3月期 連結業績予想の修正及び期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	271,700	8.8	26,900	87.5	25,600	101.0	17,000	143.5	173.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
 連結業績予想の修正については、本日（2024年2月2日）公表いたしました「2024年3月期 連結業績予想の修正及び期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	98,145,499株	2023年3月期	98,145,499株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	171,972株	2023年3月期	170,058株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	97,974,511株	2023年3月期3Q	97,977,023株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、鉄道業、ホテル業において需要の回復傾向が見られ、増収・増益となりました。

連結営業収益は1,911億5千8百万円（前年同期比7.5%増）となり、連結営業利益は213億7千9百万円（前年同期比114.8%増）、連結経常利益は201億9千4百万円（前年同期比126.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は139億5千2百万円（前年同期比154.5%増）を計上するにいたしました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

#### a. 運輸業

鉄道業におきましては、2023年3月に全線開業した相鉄新横浜線や鉄道駅バリアフリー料金の収受開始に伴う増収があったものの、「新しい生活様式」の定着やエネルギー価格高騰の継続により、引き続き厳しい事業環境となりました。このような事業環境のもと、新たにいずみ中央駅をはじめとする5駅にホームドアを設置し、安全性向上を図るとともに、引き続き、海老名駅改良工事及び鶴ヶ峰駅付近連続立体交差工事を推進いたしました。営業面では、相模鉄道×相鉄バス合同企画！「ほしかわ☆フェスタ」や「ゆめきぼ切符キャンペーン」を開催したほか、「おかいもの電車」ラッピング車両を運行するなど、沿線の魅力向上に努めました。

バス業におきましては、関東運輸局長の認可に基づき、5月より武相ブロック（対キロ運賃区間）の運賃改定を行いました。また、10月1日より横浜市交通局から83系統（上菅田東部公園線）を引き継いだほか、海老名市の新しい実証運行バス「You Bus下今泉ルート」の車両を3両導入し、運行業務を受託いたしました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は316億2千6百万円（前年同期比18.6%増）、営業利益は35億4千2百万円（前年同期は営業利益2億9千1百万円）となりました。

#### b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、東京23区内1号店となる「そうてつローゼン品川南大井店」を9月に東京都品川区に開業したほか、既存店舗では、横浜市港南区の「そうてつローゼン港南台店」をはじめとする18店舗で改装を実施いたしました。商品面では、相鉄線の車両をモチーフとしたデザインの日本酒「ICHI-GO-CAN®」2種類を28店舗で販売したほか、横浜市と「健康に配慮した食環境づくり」に向けた連携協定を締結し、栄養バランスを考えた「ハマの元気ごはん弁当」を全店で販売しました。また、外国人技能実習生3期生を受け入れ、多様な人材の活用に努めたほか、そうてつローゼン公式のInstagramを開始、インスタアベカリー「葉山ボンジュール」公式ホームページを12月に開設する等、情報配信力の強化にも取り組みました。

その他流通業におきましては、無人決済店舗「ファミリーマートニューマン横浜/S店」をはじめとしたコンビニエンスストア3店舗の開業や、地元飲食チェーンと提携した冷凍食品自販機を駅ナカに展開するなど、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は725億2千8百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は3億9千7百万円（前年同期比32.1%減）となりました。

#### c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、平塚市の「グレースシア湘南平塚海岸」、埼玉県川口市の「グレースシア川口碧の杜」及び藤沢市の「ブランズシティ湘南台」の集合住宅並びに横浜市旭区の「グレースシアライフ横浜三ツ境」の戸建住宅89戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、星川駅～天王町駅間高架下の新施設「星天qlay（ホシテンクレイ）」において、2023年2月のBゾーンに続き、4月には「YADORESI（ヤドレジ）」を中心としたDゾーンを、12月には次世代の学びや交流を促し、ものづくりや創造ができる場を集約したCゾーンの一部をオープンいたしました。また、相鉄新横浜線的全線開業により、都心へのアクセスが向上したことを契機に、オフィスや複合のビルなどの取得についてエリアを拡大のうえ、取組み強化を図りました。この一環として、5月に「相鉄新横浜ビル（富士火災横浜ビル）」、6月に「相鉄都立大学駅前ビル」、9月に「相鉄代々木上原ビル（CABO uehara）」を取得しました。さらに沿線開発においては、ゆめが丘大規模集客施設の施設名称を「ゆめが丘ソラトス」に決定し、2024年夏の開業予定に向けて建築工事を進めたほか、10月には「相鉄ライフ二俣川」を「ジョイナステラス3」としてリニューアルオープンしました。また、11月に開業50周年を迎えたジョイナスでは、プレミアムお買物券の販売やポイントUPのキャンペーンを行うなど、集客と販売促進の強化を図りました。そのほか、横浜駅きた西口鶴屋地区における市街地再開発事業（施設名称「THE YOKOHAMA FRONT」）について引き続き事務局業務に注力する等、魅力ある沿線の街づくりを推進いたしました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は360億5千3百万円（前年同期比20.4%減）、営業利益は95億8千9百万円（前年同期比16.3%減）となりました。

d. ホテル業

ホテル業におきましては、新型コロナウイルス感染症分類の変更に伴い、大幅な需要回復が見られました。9月24日に開業25周年を迎えた「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、セレブレーション企画として様々なプランや商品を販売したほか、クリスマスイベントにおけるメニューや商品の販売を行い、集客力及び収益力の向上に努めました。宿泊特化型ホテルにおいては、新型コロナウイルス宿泊療養施設として大阪府に貸し出すために休業していた「相鉄グランドフレッサ 大阪なんば」が、5月17日から営業を再開いたしました。また、7月6日に相鉄グランドフレッサブランドとして海外初となる「相鉄グランドフレッサ サイゴン」を開業いたしました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は404億8千1百万円（前年同期比64.0%増）、営業利益は65億5千万円（前年同期は営業損失31億7千6百万円）となりました。

e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、スマートフォン等を活用したクラウド型施設管理ソリューション「Facility Log®」（ファシリティログ）や自動清掃ロボット等、ICT等デジタル技術の活用による業務の効率化・省力化を推進したほか、積極的な営業活動により新規物件及び既存物件における周辺業務受注拡大を図るとともに、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は184億7千万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は13億1千7百万円（前年同期比68.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産、負債、純資産の状況）

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、有形固定資産の増加等により前連結会計年度末に比べて221億8千万円増加し、6,691億3千1百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により111億8千7百万円増加し、5,123億4千9百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして3,719億3千4百万円となり、167億3百万円増加いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により109億9千2百万円増加し、1,567億8千2百万円となりました。なお、自己資本比率は23.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、2023年11月2日に公表しました数値から変更しております。

主にホテル業の業績が前回発表予想を上回って推移することを見込み、営業収益は2,717億円（前回予想比0.8%増）、営業利益は269億円（前回予想比15.0%増）、経常利益は256億円（前回予想比16.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は170億円（前回予想比18.9%増）を見込んでおります。

詳細につきましては、本日（2024年2月2日）公表いたしました「2024年3月期 連結業績予想の修正及び期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,156	16,171
受取手形及び売掛金	12,483	12,789
棚卸資産	28,600	35,413
その他	12,087	16,456
貸倒引当金	△38	△6
流動資産合計	73,290	80,823
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	182,353	182,474
機械装置及び運搬具(純額)	36,141	36,679
土地	262,415	271,462
使用権資産(純額)	15,399	15,877
建設仮勘定	14,432	19,726
その他(純額)	5,968	5,366
有形固定資産合計	516,710	531,586
無形固定資産		
のれん	1,008	851
借地権	3,546	3,546
その他	5,091	4,553
無形固定資産合計	9,646	8,950
投資その他の資産		
投資有価証券	12,972	12,933
長期貸付金	1,341	2,102
退職給付に係る資産	12,491	12,830
繰延税金資産	6,703	6,007
その他	14,313	14,418
貸倒引当金	△518	△522
投資その他の資産合計	47,303	47,770
固定資産合計	573,661	588,308
資産合計	646,951	669,131

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,307	7,818
短期借入金	37,893	66,636
1年以内償還社債	—	10,000
リース債務	1,173	1,443
未払法人税等	1,346	4,248
契約負債	5,927	7,068
賞与引当金	2,336	895
その他の引当金	119	204
資産除去債務	26	76
その他	35,456	28,513
流動負債合計	93,586	126,904
固定負債		
社債	185,000	175,000
長期借入金	132,337	120,298
リース債務	16,919	17,849
再評価に係る繰延税金負債	23,223	23,223
退職給付に係る負債	18,540	17,969
長期預り敷金保証金	27,802	27,162
資産除去債務	3,097	3,375
その他	652	565
固定負債合計	407,574	385,444
負債合計	501,161	512,349
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	26,980	26,981
利益剰余金	75,842	86,366
自己株式	△353	△358
株主資本合計	141,273	151,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,166	4,650
土地再評価差額金	△394	△394
為替換算調整勘定	△411	△283
退職給付に係る調整累計額	1,062	920
その他の包括利益累計額合計	4,423	4,893
非支配株主持分	93	97
純資産合計	145,789	156,782
負債純資産合計	646,951	669,131

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業収益	177,888	191,158
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	125,045	123,173
販売費及び一般管理費	42,889	46,605
営業費合計	167,935	169,778
営業利益	9,952	21,379
営業外収益		
受取利息	152	175
受取配当金	169	197
為替差益	399	665
受取補償金	65	65
受託工事事務費戻入	98	23
雑収入	321	174
営業外収益合計	1,206	1,301
営業外費用		
支払利息	2,138	2,189
雑支出	115	296
営業外費用合計	2,253	2,485
経常利益	8,906	20,194
特別利益		
固定資産売却益	3	27
投資有価証券売却益	—	3
工事負担金等受入額	—	170
補助金	631	520
受取補償金	114	—
移転補償金	—	10
固定資産受贈益	0	1
特別利益合計	749	732
特別損失		
固定資産売却損	—	4
固定資産除却損	161	210
固定資産圧縮損	600	672
減損損失	30	52
事業撤退損	428	1
その他	9	0
特別損失合計	1,230	941
税金等調整前四半期純利益	8,425	19,986
法人税、住民税及び事業税	1,730	5,461
法人税等調整額	1,227	673
法人税等合計	2,958	6,135
四半期純利益	5,466	13,851
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16	△101
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,482	13,952



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	5,466	13,851
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,485	484
為替換算調整勘定	818	82
退職給付に係る調整額	△82	△141
持分法適用会社に対する持分相当額	—	150
その他の包括利益合計	2,220	575
四半期包括利益	7,687	14,426
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,623	14,423
非支配株主に係る四半期包括利益	64	3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	26,213	71,487	42,323	24,332	13,531	177,888	—	177,888
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	444	2	2,965	352	3,526	7,290	△7,290	—
計	26,657	71,489	45,288	24,684	17,057	185,178	△7,290	177,888
セグメント利益 又は損失(△)	291	585	11,454	△3,176	782	9,938	14	9,952

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	31,149	72,522	32,987	40,123	14,375	191,158	—	191,158
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	476	6	3,065	358	4,095	8,001	△8,001	—
計	31,626	72,528	36,053	40,481	18,470	199,159	△8,001	191,158
セグメント利益	3,542	397	9,589	6,550	1,317	21,397	△18	21,379

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。